

2.各種内装仕上材の適否

◎：最も適している ○：適している △：使用に際して注意が必要 ×：不適

種類	左官材				仕上塗材			ペイント塗り	張り物			
	モルタル塗り		プaster塗り		薄付け仕上塗材	厚付け仕上塗材	外装仕上塗材		各種ボード張り(胴縁工法)	石膏ボード張り(GL工法)	タイル張り	
	ALC用モルタル	普通モルタル(ALC仕様)	石膏プaster	合成樹脂プaster	内装薄塗材	内装厚塗材						
工法の概要	●ALC用に開発された既調合タイプのモルタル。 ●低強度・低収縮を特徴とする。 ●5~10mm程度の薄塗りが可能。	●ALCより重いうえに強度が強く、また乾燥収縮が大きいので、好ましくない。 ●塗厚は10~15mmが標準。	●ALC用に開発された既調合タイプの石膏プasterで下地処理の必要がない。 ●標準塗厚は5~6mm程度。	●薄塗リタイプとして開発されたプasterで既調合のパテ状の仕上材。 ●塗厚は2~3mm程度。 ●一般には、クロス又は壁紙などの下地として用いる。	●セメントリシン、シリカリシン、樹脂リシン、などあるが、エマルジョン系の合成樹脂を結合材とした樹脂リシンが廉価であり実績が多い。		●厚付け塗膜による独特のデザイン性を有する。	●外装仕上材P.250参照。	●簡単な仕上げとして用いられる。 ●美観を要求される内装には向かない。	●胴縁を介して、ボード類を取り付ける工法。 ●ボード類とシボレックス面との間に空間ができ、間仕切に適した工法である。 ●接着剤と釘を併用するのが一般的。	●タンゴ状にしたGLボードを用いて石膏ボードを直張りする簡便な工法。	●小口、二丁掛程度の磁器、せり器などの吸水率の小さなタイルを張る工法。
注意事項	●ドライアウトを避けるため、下地処理が必要。 ●亀裂防止の為、パネル5枚以内に目地切りが必要。	●採用する場合は、ALC仕様とする。 ●必ずシーラー処理を行う。 ●必ず混和材を入れる。 ●亀裂防止のため、パネル5枚以内に目地切りが必要。	●常時高温を受ける箇所(ダクト周辺)や、浴室など直接水ぬれする箇所、湿気の多い箇所には使用できない。 ●パネル目地部には補強テープによる処理が望まれる。	●2~3mmと塗厚が薄い為下地の影響を受けやすく高い面精度が得にくい。	●汚れが付着しやすい。 ●寒冷時(5℃以下)には施工を避ける。 ●下地処理としてフィラーを塗布する。		●汚染防止のためにはトップコートを使用する必要がある。 ●セメント系の内装厚塗材は、耐ひび割れ性に若干劣る。		●接着剤は酢酸ビニル系溶剤型か、クロロプレーン系が適している。 ●この場合、シボレックス表面に付着している粉末をよく取り除く。	●施工に際しては、パネル面がよく乾燥してから行う。 ●ボンドのピッチ大きさはボードメーカーの仕様で行う。パネル取付け構法によっては不適当なものもある。	●シボレックスパネルの短辺目地、開口部、出入隅部などには必ず伸縮目地を設ける。	
構成例												
シボレックス内装への適否	縦壁	SDR構法	×	×	×	×	○	△	○	△	○	○
	縦壁	SDS構法(間仕切り壁構法も含む)	△	△	△	△	○	△	○	△	△	△
	横壁	SDR構法	×	×	×	×	○	△	○	△	△	△
商品例	●アルタック(中部工業) ●ライトセメントALC(日本スタッコ)	[混和材] ●ハイメトローズ(信越化学工業) ●ハイフレックスHF-1000(日本化成)	●サンエスAプaster(サンエス石膏) ●ユートップ(吉野石膏)	●SMプaster(メーコー) ●サンエススーパーライト(サンエス石こう)	●アクリルダイヤ(恒和化学工業) ●SMコート(メーコー) ●シントーラフコート(神東塗料) ●スズカリシン(スズカファイン) ●シボカケン(エスケー化研)		●ウォールコートアクリルスタッコ(エービーシー商会)		●ボンドK10,G10(コニシ) ●コルクリメントA(セメダイン)	●GLボンド(吉野石膏)	[タイル] ●50mm角モザイク ●50mm二丁モザイク ●二丁掛平 ●100mm角[接着材] ●Kタック(中部工業)	

仕上げと防水
内装仕上げ